園長通信～こころ～ №１４９

サンタクロース

2024.12.18

サンタをやることになった。自分が勤める幼稚園ではない。他の保育所に登場するサンタである。誰がサンタをやっているかがわかってしまうのはよくないらしい。そのため、子どもたちが知らない人物がサンタになる必要が出てくる。

他のところの心配をしている場合ではない。まずは、自分の園に来てもらうサンタを探さなければならない。心当たりはない。部活動の教え子たちと会を催したときに、試しに言ってみた。「サンタになってくれる人はいませんか？」すると、意外といるもので、いとも簡単に「やりますよ」ときた。自前のサンタ衣裳一式を持っているという。本格的なサンタである。

まずは一安心となったところで、オファーがきた。二つ返事とはいかなかったが、今までやったことがなく、初めてのサンタであることを伝えたところ、それでもかまわないということなので、引き受けることにした。我が園もそうだが、他のところも、けっこうサンタさん探しで苦労していることがわかった。

事前に、子どもたちからの“サンタさんへの質問”が届いた。質問は３つである。「サンタクロースはどこから来たのですか？」「どうやっておもちゃを作っているのですか？」「どうやって空を飛ぶのですか？」

困った。子どもたちにわかるように、子どもたちが納得するように答えるには、どうすればよいのか。これは、現役の幼稚園の先生に聞いたほうが早い。ということで、目の前にいる主任の先生に聞いてみた。「こういう質問が来たんだけど」「園長先生、ちょっと待っててください」しばらくすると１冊の絵本を手に戻ってきた。『サンタクロースと小人たち』作者は、マウリ＝クンナスフィンランドの人である。これを読めば、子どもたちの質問には答えられるということらしい。ありがたい絵本である。

この絵本によると、サンタクロースは、フィンランドから来たことになっている。しかし、いつ、どこからサンタクロースがフィンランドに来たのかはわからない。おもちゃを作っているのは、小人のおじいさんやおばあさんである。とても器用で、いろいろな職業の人がいる。空を飛ぶのは、トナカイかと思ったら、意外と現実的で飛行機だった。まずは、たくさんのプレゼントを飛行機で運び、そこからトナカイとそりが空を飛んで届けるらしい。

どうして、一晩のうちに、たくさんの家をまわることができるのか。「それは、クリスマスの魔法さ」なるほど。魔法は便利である。絵本は読んだ。一応、答えはわかった。これを、子どもたちの夢をこわさないように話さなければならない。

絵本を読んでいると、最も心に残る一節を見つけた。「プレゼントをいくつもらうかは、問題ではありません。大切なのは、心をこめてプレゼントすることです」子どもたちにとって、やっぱりサンタさんは、どこの家にもいるのである。明日が、サンタデビューとなる。楽しみである。